

事務事業名		各種スポーツ大会運営支援事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 総合戦略登載事業			
政策体系	政策名	013 豊かな心をはぐくむ人づくりの推進				事業期間		予算科目			
	施策名	117 スポーツ・レクリエーションの振興						会計	款	項	目
	基本事業名	013 スポーツ・レクリエーション活動の推進				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和27 年度～) ☐ 期間限定複数年度【計画期間】 年度～ 年度  ※全体計画欄の総投入量を記入		01	02	01	15
根拠法令								事務事業区分			
所属	部課名	協働まちづくり部生涯学習課						A 政策事業 B 施設整備			
	課長名	熊谷 善男						C 施設管理 D 補助金等			
	係名	スポーツ推進係	電話	27-3111				E 一般(A～D以外)			
	担当者	富山 智門	内線	288							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
・生涯スポーツの振興や市民の体力向上、健康の維持増進及び競技力の向上を図るとともに、スポーツによる交流人口の拡大を目的として、大船渡新春四大マラソン大会、大船渡ポートサイドバレーボール大会を開催する。 ・市の事務は、主催団体の一員として各大会実行委員会への参加、大船渡市体育協会と連携して実行委員会事務局の運営、当日の大会運営全般等。 ・事業費は、各大会実行委員会への補助金である。 ・上記大会とは別に県大会以上のスポーツ大会を市内で開催する場合にも、補助金を支出している。 ・平成29年度より各種大会開催助成事業(ID1012)を含む。						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
都道府県支出金											
地方債											
その他											
一般財源											
						事業費計 (A)	0				
						人件費					
						正規職員従事人数					
						延べ業務時間					
						人件費計 (B)	0				
						トータルコスト(A)+(B)	0				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

- ・大船渡新春四大マラソン大会(道路工事の影響により中止)、大船渡ポートサイドマラソン大会、大船渡ポートサイドバレーボール大会の開催
- ・全日本学童軟式野球大会岩手県大会・岩手県民体育大会(バレー競技)

今年度計画(今年度計画している主な活動)

- ・大船渡新春四大マラソン大会、大船渡ポートサイドバレーボール大会、全国スポーツ少年団軟式野球交流大会(新型コロナウイルス感染症の影響により中止)、全日本学童軟式野球大会岩手県大会

② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等

市体育協会

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

円滑に大会運営してもらう

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

- ・競技力の向上
- ・大会の充実、参加者の満足度向上

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 実行委員会開催数	回
イ 補助金交付団体数	団体
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ ポートサイドマラソン大会申込者数	人
キ 市内で開催された県大会以上の大会数	回
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 大会参加者数	人
シ 補助金額	千円
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
	人件費	一般財源	千 円	3,300	1,700	3,550	3,300	2,530	2,200
		事業費計 (A)	千 円	3,300	1,700	3,550	3,300	2,530	2,200
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時 間	800	800	700	700	700	700
		人件費計 (B)	千 円	3,200	3,200	2,800	2,800	2,800	2,800
トータルコスト(A)+(B)			千 円	6,500	4,900	6,350	6,100	5,330	5,000
⑤活動指標	ア	回	6	6	6	8	6	4	
	イ	団体	1	1	2	1	3	2	
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	965	1,000	849	617	777	—	
	キ	回	1	1	2	1	2	1	
	ク								
⑦成果指標	サ	人	3,462	2,675	2,851	2,408	1,061	2,500	
	シ	千円	3,300	1,700	3,550	3,300	2,530	2,200	
	ス								

事務事業ID	1008	事務事業名	各種スポーツ大会運営支援事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

新春四大マラソン大会：昭和27年に県南地区駅伝競走大会が開催されたのが大会の始まり。平成13年からは新春四大マラソンとして開催。
ポートサイドバレーボール大会：1992年バルセロナ五輪にバレーボール日本代表として出場した栗生澤淳一氏を顕彰し、平成8年から開催。平成27年からは小学生の大会へ移行。
補助金事業：市内で県大会以上の大会を開催する際に、大会運営を支援することを目的に実施。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・県大会等を誘致して市民がスポーツに触れる機会を設けることは、生涯スポーツの推進を図る上で重要であり、補助金交付は円滑な大会運営だけでなく生涯スポーツの振興にも寄与するものである。
・平成28年度のポートサイドマラソン大会は希望郷いわて国体のデモンストレーション競技として実施した。平成30年度の30回大会をもって大会の歴史に幕を閉じた。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

マラソン：警察署から、安全対策に配慮するよう強く求められている。ポートサイドマラソン大会が終了し残念に思う市民が多いが、ハーフマラソンコースを市内に設定し、新たな大会の開催を求める声もある。
補助金：関係者からは、補助金額の増額を求める声が毎年寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・陸上競技(マラソン・駅伝)及びバレーボールの普及を図ることによって、当市のスポーツ・レクリエーション活動の推進に結びついている。 ・補助金を交付することにより各協会が主管する大会の円滑な運営が図られ、育成支援にもつながっている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 当市出身のアスリートを顕彰する大会や県大会以上の高レベルの大会を当市で開催することで、市民のスポーツに対する意識向上、運動習慣のきっかけ作りを図っている。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 大会の規模から鑑みて、参加対象と競技人口の裾野を広げる大会の意図は妥当である。補助金についても用途を明確に定めており、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 レース終了後のサービスの提供や参加賞等の工夫により、更なる参加者の増加を図ることが可能である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・当市を代表する各種大会は、スポーツイベントであるとともに観光客集客の大きなイベントでもあり、大会の廃止は交流人口に大きな影響を及ぼすこととなる。 ・補助金の有無は大会の存続に関わる大きな要素であり、上記影響等も考えると廃止することは不可能である。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・近年のジョギングブームにより他市町村でも魅力的なマラソン大会が数多く開催されており、これ以上の事業費削減は著しいサービスの低下と参加者の減少を招くことになり、大会を続ける以上は削減余地がない。 ・補助金は現時点で必要最低限の金額であり、削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 市の担当と指定管理者である大船渡市体育協会で大会の運営を行っているが、他課からも動員要請しながら何とか大会運営を行っているのが現状であり、人件費削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 公費による補助金の使途は限定されており、また、参加者からも参加料を徴収しているため、費用負担は公平になされている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性

- 現状維持
- 改革改善(縮小・統合含む)
- 終了・廃止・休止

円滑な大会運営や選手に対するサービスのノウハウ蓄積により参加者の満足度は高いが、今後、更なる参加者確保のため、大会の特色づくりに努める。

(2) 改革・改善による期待成果

左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。
(終了・廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等

マラソン大会が隆盛を極める今般、大船渡ならではの特徴を打ち出し安定的に参加者を確保するには、サービスや満足度といったレースそのものの質を向上させる必要があり、そのためには補助金の効果的な投入やスポンサーの確保などによる財政的に安定した大会運営が必要となる。

4 課長等意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持
- 改革改善(縮小・統合含む)
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

「競技力向上」、「健康増進等」、従来のスポーツ大会に求められる成果に加え、「交流人口拡大」、「経済波及効果」など、スポーツ大会に求められる多様な効果が得られるよう、取り組む必要がある。